

2017/3/19

第23回京都大学教育研究フォーラム

オンライン型FDプログラムの 学習継続要因の分析

栗田佳代子 東京大学 大学総合教育研究センター
中村長史 東京大学 大学総合教育研究センター

目次

- はじめに
- 方法
- 結果
- 考察
- 今後に向けて

はじめに

方法

結果

考察

今後に向けて

背景と研究の目的

□ 背景

- MOOC (Massive Open Online Course)の普及
- MOOCの修了率の低さ

□ 目的

- 目的：講座の修了者が受講を継続できた要因をアンケートの自由記述から明らかにする
- 方法：「インタラクティブ・ティーチング」受講登録者への質問紙調査を実施し、その分析を行う

「インタラクティブ・ティーチング」の概要

- 2013年11月～2016年9月の4期にわたり
JMOCプラットフォームのdocomo gaccoから
提供
- 双方向の学びの場づくりを目的とした教え方
についてのオンライン講座
- 東京大学フューチャーファカルティプログラム
(東大FFP) を基盤として構成



「インタラクティブ・ティーチング」の概要

- アクティブラーニングについて知ろう
- アクティブラーニングの技法
- 学習の科学
- 90分の授業をデザインしよう
- もっと使えるシラバスを書こう
- 学びを促す評価
- キャリアパスを考える 1 大学教員としてのあり方
- キャリアパスを考える 2 構造化アカデミック・ポートフォリオ

「インタラクティブ・ティーチング」の概要

□ キーコンセプト

「聞くだけの授業は終わりにしよう」

□ ターゲット：大学院生，大学教員、非常勤講師

□ 期間：8週間

□ 評価：各週の確認テスト＋期末レポート＋課題



構成 (オンラインセッション)

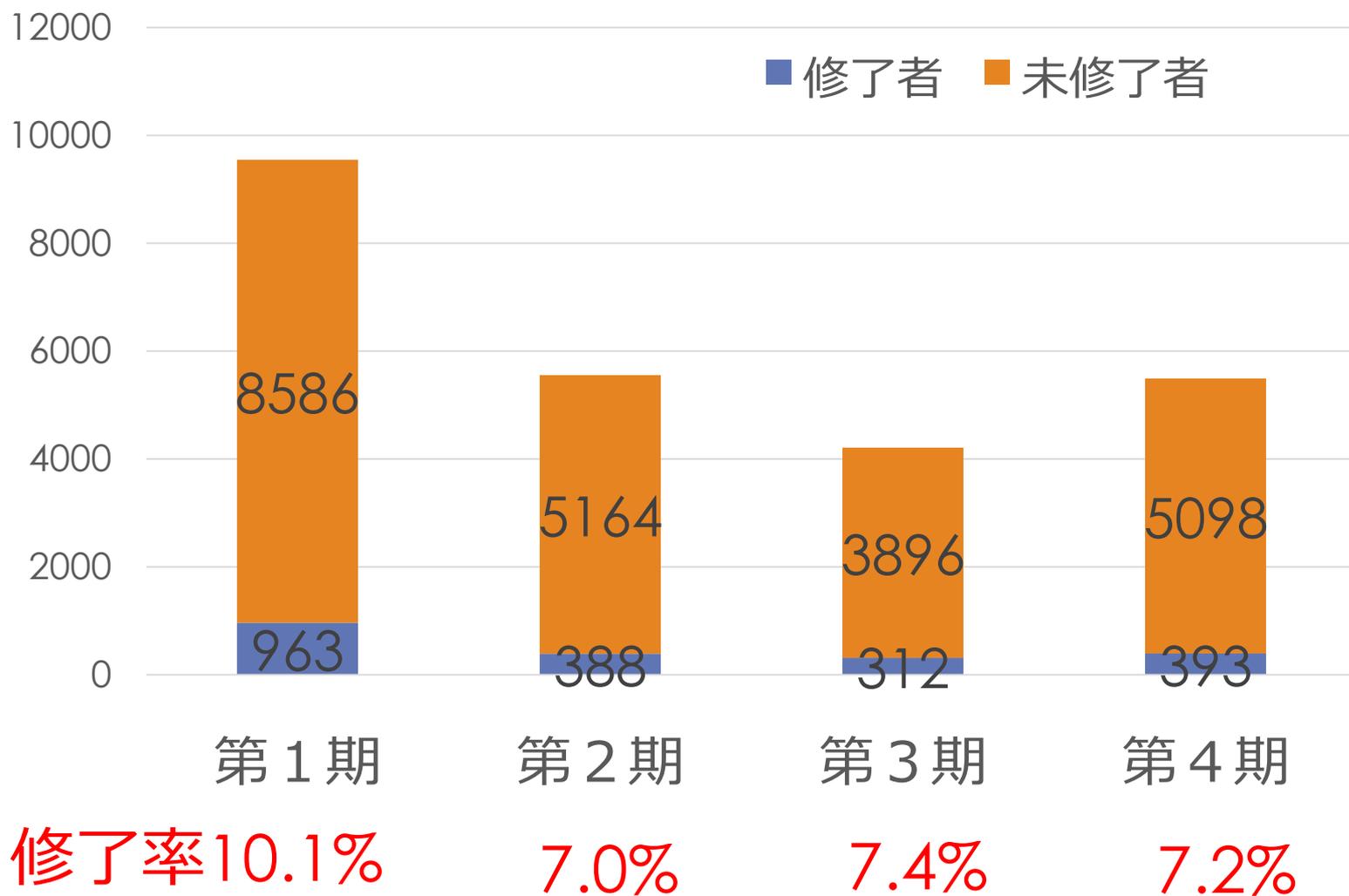
1	MAIN THEME	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
Introduction	THEME	ナレッジ								スキル	ストーリー	
1												
W1	アクティブ・ラーニングについて知ろう	W1-2 アクティブラーニングとは	W1-3 アクティブラーニングの現状 (成田×栗田)	W1-4 アクティブラーニングの方法を選ぶ	W1-5 アクティブラーニングの方法を適用する			W1-D 自己紹介	W1-E 振り返り	スキルの哲学：肝心なものは目に見えない	平岡秀一先生：理系分野のアクティブ・ラーニング	高木晴夫先生：ケースを用いた学習；ケースメソッドを用いたビジネススクールでの学び
W2	アクティブ・ラーニングの技法	W2-2 Think Pair Share	W2-3 シグソー法	W2-4 ポスターツアー	W2-5 ピア・インストラクション			W2-D グループワークこんなときどうする？	W2-E 振り返り	準備編：空間を作る	本田由紀先生：学生の議論を促すには？	三宅なほみ先生：協調学習、高校の授業をインタラクティブに！
W3	学習の科学	W3-2 モチベーション(1)	W3-3 モチベーション(2)	W3-4 熟達への道	W3-5 練習とフィードバック			W3-D 部分スキルへの分解	W3-E 振り返り	導入編：伝わる喋り方	渋谷まさと先生：栄養学を教えるー一步一步学びをつくることの大切さ	上田備行先生：プロジェクトベースド・ラーニングから、パッションベースド・ラーニングへ
W4	90分の授業をデザインしよう	W4-2 クラスデザインの意義とモデル(1)	W4-3 クラスデザインの意義とモデル(2)	W4-4 クラス構成の基本型	W4-5 デザインシートの利用			W4-D クラス・デザイン演習	W4-E 振り返り	交流編1：まずは自分の緊張をほぐす	斎藤兆史先生：目で見、耳で聞く英語教育：視聴覚教材の利用	河谷剛彦先生：教え方・学び方の日米英比較、1人の教員ができること
W5	もっと使えるシラバスを書こう(佐藤×栗田)	W5-2 もっとある！シラバスの役割(佐藤×栗田)	W5-3 目的と目標の設定(佐藤×栗田)	W5-4 授業スケジュールのデザイン(佐藤×栗田)	W5-5 授業の構造を可視化する(佐藤×栗田)	W5-6 評価方法の書き方(佐藤×栗田)		W5-D 目的と目標設定演習(佐藤×栗田)	W5-E 振り返り	交流編2：リアクションを生み出すために	ヘルマン・ゴチエフスキ先生：大学教育と大学生の日独比較	山邊昭則先生：学生とともに創る授業ープロジェクトベースド・ラーニングへの挑戦
W6	学びを促す評価	W6-2 評価の目的	W6-3 評価を設計する際のポイント	W6-4 ルーブリック(1)	W6-5 ルーブリック(2)			W6-D ルーブリックをつくろう	W6-E 振り返り	応用編1：質疑応答(1)	入江直樹先生：研究の駆動力にもなる「おもろい教育」を目指して	加藤雅則氏：対話を使った組織変革・人材育成
W7	キャリアパスを考える1～大学教員としてのあり方	W7-2 日本の高等教育	W7-3 大学教員としてのあり方	W7-4 目指す大学教員像を考える				W7-D 教育と研究のバランス	W7-E 振り返り	応用編2：質疑応答(2)	山内祐平先生：大学はどうなるか？大学教員には何が求められるか？：MOOCと反転授業	菊池省三先生：「教室」に「対話」をうみだす教師の役割
W8	キャリアパスを考える2～ポートフォリオの利用～	W8-2 構造化アカデミック・ポートフォリオ	W8-3 SAPチャートの作成の意義	W8-4 SAPチャートの作成1～教育～	W8-5 SAPチャートの作成2～研究～	W8-6 SAPチャートの作成3～サービスおよび統合～			W8-E 振り返り	まとめ：失敗を恐れるな	IT-End トークセッション：吉見俊哉：大学の歴史から大学教員のこれからを考えるWith 中原・栗田	

構成 (リアルセッション)

- オンライン講座修了生のうち希望者から20名を選抜
- コンセプト：
ここでしかできないこと
ここだからできること

MOOC「インタラクティブ・ティーチング」 リアル・セッション(反転授業)プログラム			
日時: 2016年8月20-22日(土、日、月)9:00-17:30 場所: 東京大学 本郷キャンパス 工学部2号館 92B教室 アクセス→ http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_04_03_j.html			
担当教員: 栗田佳代子(東京大学)・中原淳(東京大学) 協力: 成田秀夫(河合塾) 模擬授業協力: 堀上晶子(河合塾)・吉田壘(東京大学) 			
	DAY 1・8月20日(土)	DAY2・8月21日(日)	DAY 3・8月22日(月)
9:00	イントロダクション	レビュー&イントロダクション	レビュー&イントロダクション
10:00	模擬授業(1)	Review Session ジグソー法+検討	模擬授業FINAL(1)
		15 minute BREAK	10 minute BREAK
11:00	10 minute BREAK	Hands-on Session(4) ジグソー法の評価と改善 (ルーブリック作成)	模擬授業FINAL(2)
	模擬授業(2)		
12:00	LUNCH (音楽座ミュージカル 藤田さま・渡辺さま)	LUNCH	LUNCH (平岡秀一先生)
13:00	Hands-on Session(1) アクティブ・ラーニングとは	Hands-on Session(5) リフレクション	Hands-on Session(7) ティーチング・ポートフォリオ チャート
14:00	Hands-on Session(2) クラスデザイン (模擬授業の振り返り)		
15:00	15 minute BREAK	15 minute BREAK	15 minute BREAK
16:00	Hands-on Session(3) 問いを考える ピア・インストラクション問題改善	Hands-on Session(6) コースデザイン	Hands-on Session(8) まとめと振り返り
17:00	振り返り	振り返り	履修証授与式
17:30	※プログラムは変更する可能性があります。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 主任講師ファシリテーションのもとワークを実施 □ 「模擬授業」: 自身の専門に関する模擬授業 (計20名) ■ 「Review Session」: 1名の受講生がジグソー法を用いた授業を担当 		

受講者数・修了者数・修了率



はじめに

方法

結果

考察

今後に向けて

アンケート構成

- 受講前アンケート

 - 回答者属性、評定尺度、自由記述

- 受講後アンケート

 - 回答者属性、評定尺度、自由記述

- 成績評価票

 - 各週の確認テストスコアと期末レポートスコア

受講後アンケートの継続要因の分析

- データ：第3期、第4期のデータ
- 分析対象：
 - 事前アンケートの基礎データ分析
 - 事後アンケートにおける受講継続要因についてたずねた項目
 - 「オンライン・セッションを受講していただいたところまで受講を続けられた理由や、受講の支えとなった要因はありますか？
思いつくことがありましたら、自由にご記入ください。（任意回答）」

受講後アンケートの継続要因の分析

□手順

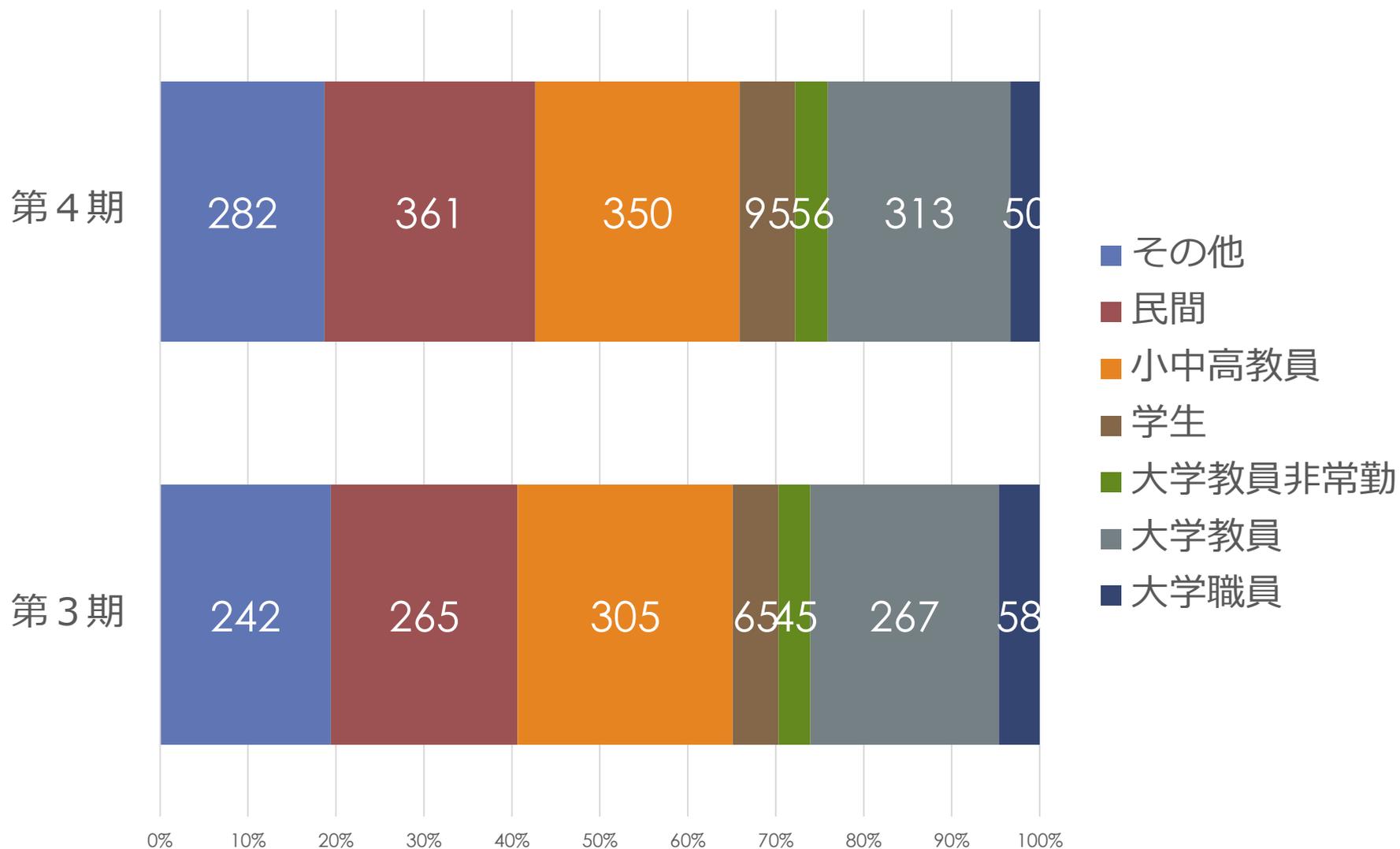
- 第二著者が第3期データをもとにカテゴリ構成
- 第一著者が第4期のデータにあてはめて、カテゴリのあてはまりについて確認
- 回答票のうち197の自由記述が得られ、要素を265抽出

はじめに
方法
結果
考察
今後に向けて

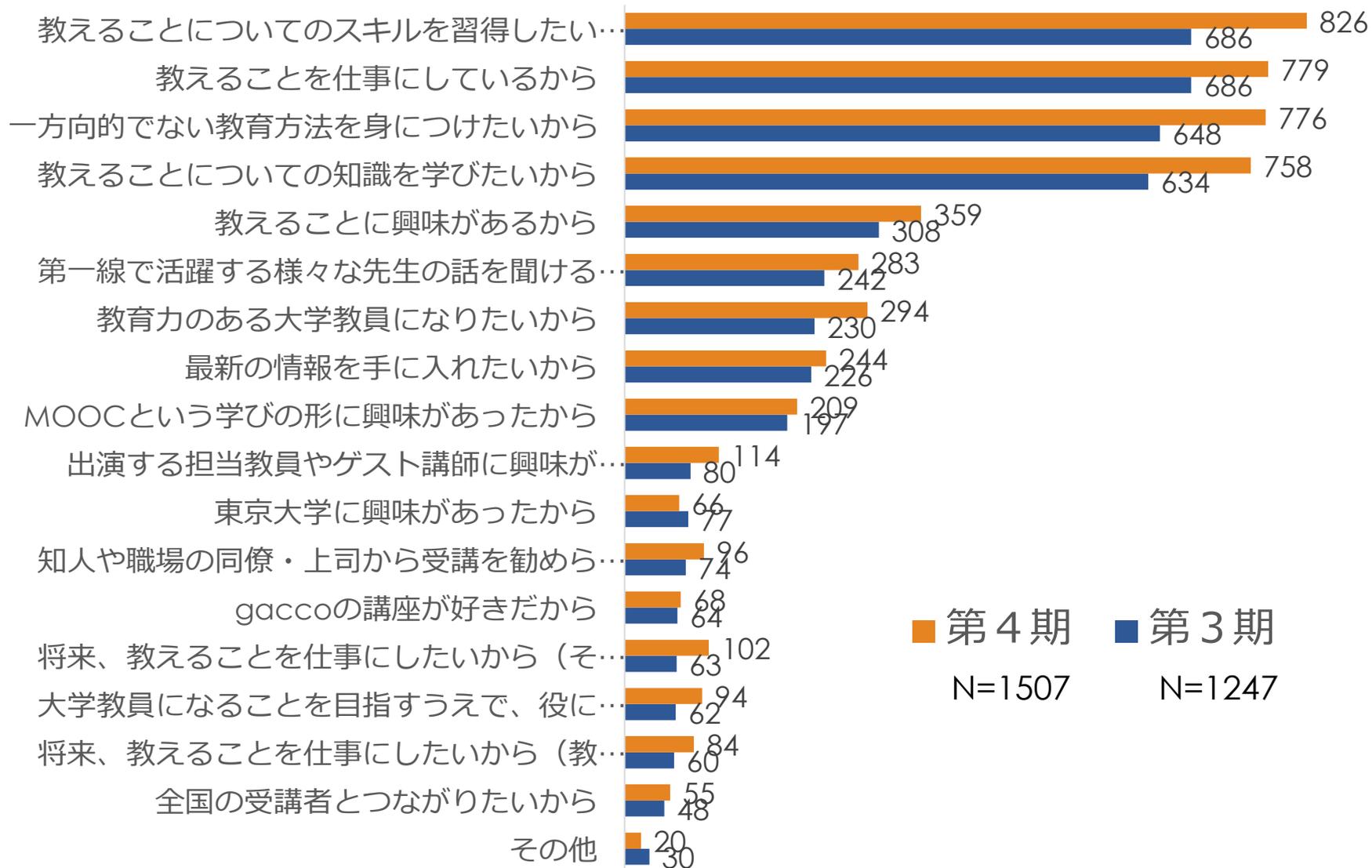
受講前アンケートの回答数と回収率

	第3期	第4期
受講登録	4208	5491
回答者	1247	1507
回収率	29.6%	27.4%

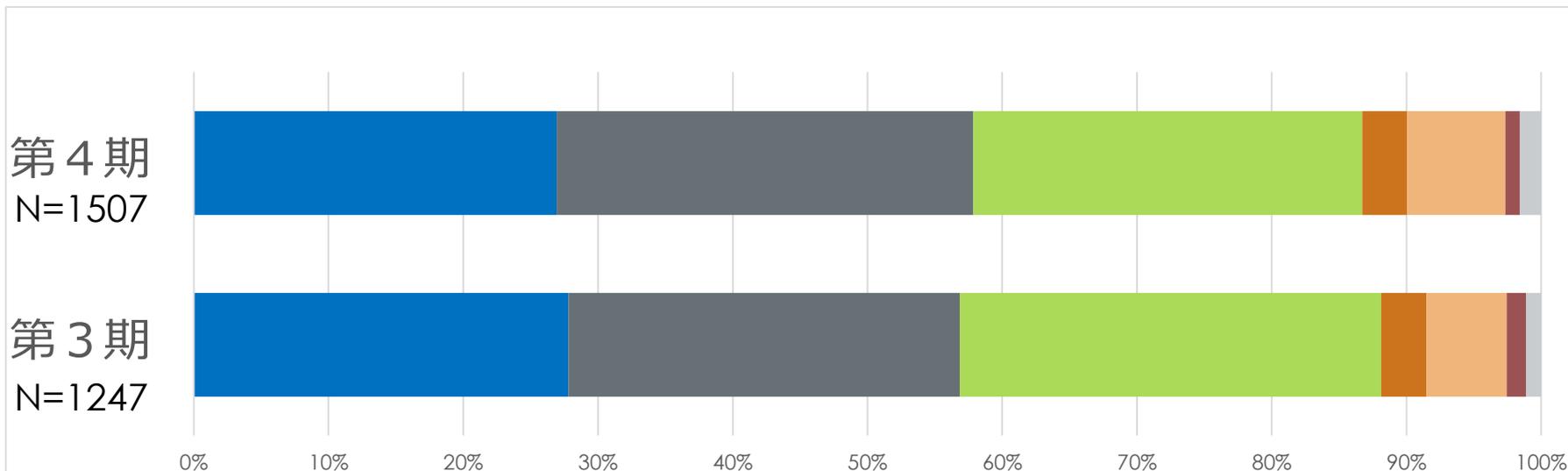
受講登録者の属性



受講動機 (複数回答可)



受講の真剣度



- すべての課題に取り組み、必ず修了証を得るつもりである
- ほぼ全ての課題に取り組み、できることなら修了証も得たいと考えている
- 空き時間の中で課題に取り組み、もし修了証が得られたら嬉しいと思っている
- 授業映像は見たいが、課題に取り組む予定はなく、修了証取得は目指していない
- 少し様子を見て、面白そうだったら修了証の取得を目指そうと思っている
- どのような内容なのか少し覗いてみたいので、登録しただけ
- 無回答

受講後アンケート

	第3期
修了者	312
回答者	226
回収率	72.4%

カテゴリ（大分類）

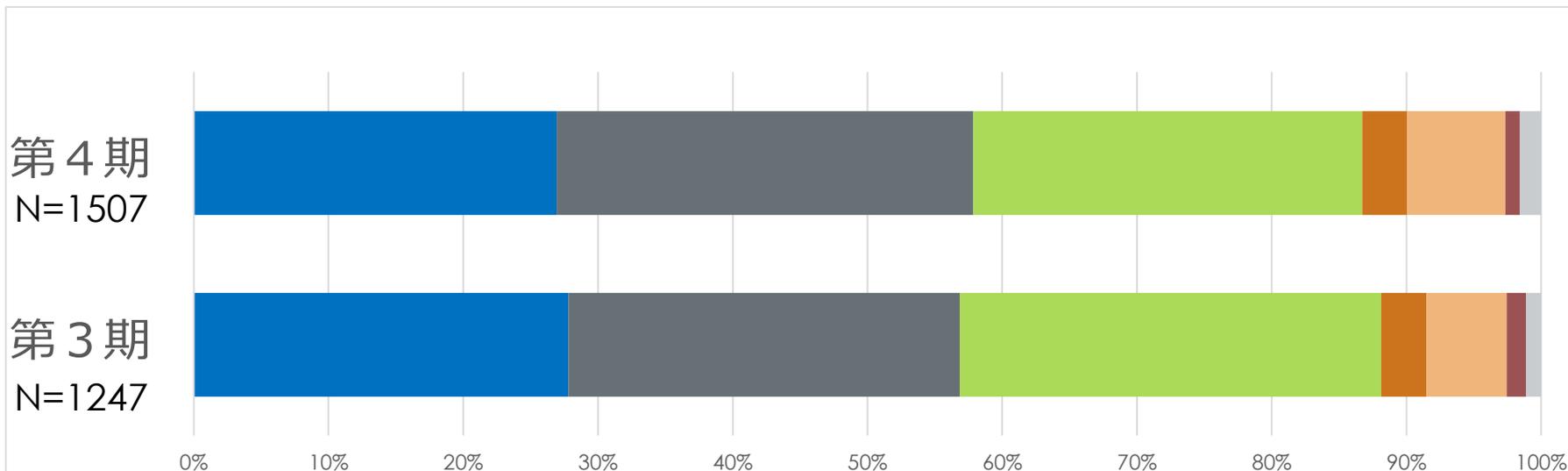
- 質の高さ
- 適度な負担
- 利便性
- 修了までの
- 明確な道程
- 期日の存在
- インセンティブ
- 学習仲間の存在
- 出演者への好感情

大分類	小分類	例
質の高さ	有用さ(71)	授業改善に役立った等
	興味深さ(69)	知りたくなった、おもしろかった、飽きない等
	明快さ(8)	講師の説明がわかりやすかった等
適度な負担	適度な分量(7)	課題の量が多すぎない等
	適度な難易度(2)	クイズが難しすぎない等
利便性	内容に関する利便性(9)	動画が短い等
	形式に関する利便性(6)	字幕、倍速視聴等
修了までの明確な道程	成果の可視化(17)	成績を棒グラフで確認できる等
	目標の可視化(4)	シラバスの目的・目標が明確等
期日の存在	縛りがある(7)	レポートの提出期限等
	猶予がある(2)	クイズの回答期限が2週間と余裕がある等
インセンティブ	修了証(13)	修了証がほしい
	動画DL権(3)	修了して動画をDLできるようになりたい
	リアル・セッション(6)	修了してリアル・セッションに参加したい
学習仲間の存在	オンライン講座でできた仲間(13)	ディスカッションボード、レポートの相互採点等
	以前からの仲間(17)	友人と受講、同僚と受講等
出演者への好感情	講師(6)	講師が親しみやすい等
	院生役(5)	院生役がいることで臨場感がある等

事前アンケートと修了者の関係

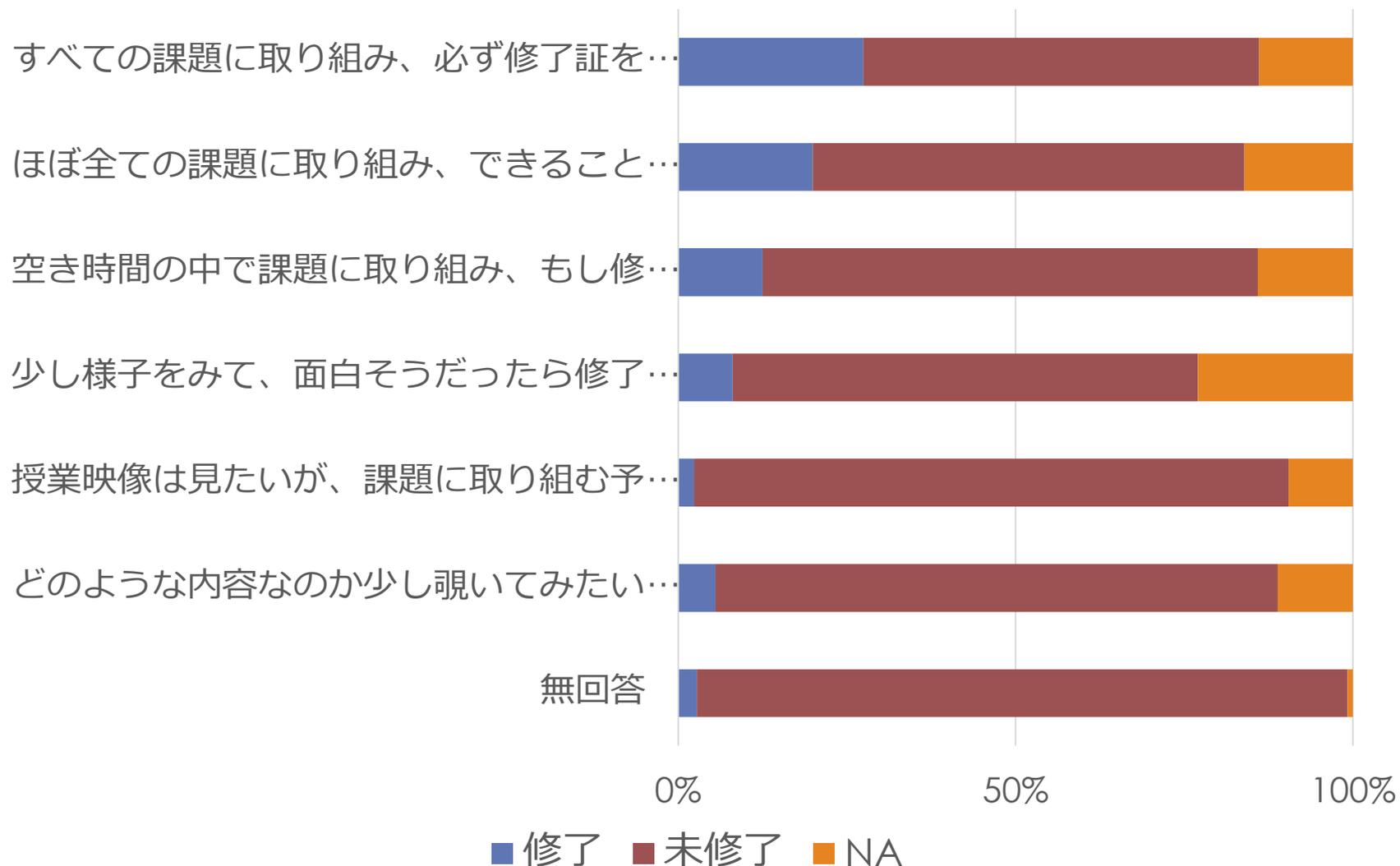
		最終結果			
		未了	修了	合計	修了者の割合
事前アンケート	回答	829	226	1055	21.4%
	無回答	3067	86	3153	2.7%
合計		3896	312		
回答者の割合		21.3%	72.4%		

受講の真剣度



- すべての課題に取り組み、必ず修了証を得るつもりである
- ほぼ全ての課題に取り組み、できることなら修了証も得たいと考えている
- 空き時間の中で課題に取り組み、もし修了証が得られたら嬉しいと思っている
- 授業映像は見たいが、課題に取り組む予定はなく、修了証取得は目指していない
- 少し様子を見て、面白そうだったら修了証の取得を目指そうと思っている
- どのような内容なのか少し覗いてみたいので、登録しただけ
- 無回答

受講前真剣度と修了率



はじめに
方法
結果
考察
今後に向けて

考察

継続のために

- 内容の質を高めること（受講者にとっての有用性、興味深い内容）は非常に重要
- 修了までの小さな達成度の可視化など、スモールステップの達成感の可視化
- 学習仲間の存在も大きい→オンライン・リアル
の仲間づくりのサポート
- 最初のモチベーションと修了率の関連性
- 関与を高める工夫

はじめに
方法
結果
考察
今後に向けて

今後に向けて

- 継続要因についての他の期での妥当性の確認
- 継続要因と修了率の詳細な検討
- ディスカッションボードの関与の分析

kurita@he.u-tokyo.ac.jp & nakamura@he.u-tokyo.ac.jp

<http://www.utokyofd.com/>

<http://kayokokurita.info> ←資料はこちらにアップロードします

ありがとうございました